

The 3rd AAPPS Workshop on Women in Physics (APPC12)の参加報告

2013/8/25

文責: 森 初果

開催日時:

2013年7月18日(木) 14:10-18:30 (口頭発表)

2013年7月18日(木)12:20-14:10 (ポスター発表)

その他

2013年7月18日(木)19:00-21:00 (ネットワーキングディナー)

2013年7月19日(金)11:30-13:00 (AAPPS Working Group on WIP Meeting)

開催場所: 幕張メッセ(千葉県)

参加者: 参加者は9か国合計55名で、日本35名、インド5名、韓国4名、台湾4名、中国2名、フィリピン2名、オーストラリア1名、ベトナム1名、インドネシア1

日本物理学会、応用物理学会男女共同参画連絡会(組織委員会)

(日本物理学会)高山一、笹尾真実子(同志社大)、鳥飼映子(山梨大)、田島節子(阪大)、森初果(東大)、富樫衛(事務局)

(応用物理学会)渡辺美代子(JST)、根本香絵((国立情報学研究所)、塩田(事務局)

1. はじめに

本ワークショップ(The 3rd AAPPS Workshop on Women in Physics)は、2013年7月14-19日に幕張で開催された第12回アジア太平洋物理会議(Asia Pacific Physics Conference 12;APPC12)の5日目、18日(木)の午後、Women in Physics (G-1, G-2)セッションの中で開催された。第1回目は2007年に韓国のポハン(APPC10)で、第2回目は2010年に中国の上海で(APPC11)、今回は第3回目として幕張(APPC12)で開かれた。本ワークショップではホスト国として、今年1月より5回の日物・応物男女共同参画連絡会会議を開催して、準備を行った。テーマは「ポジティブアクション」と「ネットワーキング」である。

表1に示すように、応用物理学会小長井会長、APPC12の永宮組織委員長にはじめと最後にご挨拶をいただき、セッションでは、韓国、中国、フィリピン、日本人2人の招待講演者、インド、タイ、ベトナム、日本人2人の口頭発表者に講演をいただいた。とても勢いがありアクティブなアジアパシフィック女性研究者により、各国の状況が紹介された。

2. セッション

プログラムに従って、各講演者について述べる。

(1) 渡辺美代子氏 (JST)

女性物理学研究者(WIP)による国際会議の歴史的経緯、現状、セッションでのテーマが説明された。2012年の統計によると、女性研究者の割合は、日本で14.0%、韓国で16.7%と世界でも最低水準であり、「ポジティブアクション」と「ネットワーキング」を議論する意義は大きいことが述べられた。

(2) Y. Park 氏 (韓国, Myoungji 大学)

AAPPS-WIP のリーダーである。大学教授から、韓国の国会議員となり、現在は学校に戻られている。韓国物理学会の女性比率は14.5%と日本物理学会(5%)の約3倍である。WIPの活動は、日本とほぼ同じく2002年からスタートし、AAPPSでのアジアWIPワーキンググループ組織、女子高校生を対象とした物理キャンプなど、積極的に国内外で「ネットワーキング」構築を推進している。鳥養氏が彼女の物理キャンプの報告に触発されて、日本でも、女子中高生のための夏の学校、春の学校が2007年に立ち上げられた。日韓の両女子中高生夏の学校で、ウェブミーティングを2007-2011年に行い、国際交流を行った。また、1996年には政府のポジションに限って「ポジティブアクション」が適用され、現在は、30%の女性雇用を目指していると報告された。

(3) Ling-An Wu 氏 (中国, Institute of Physics, Chinese academy of Science(CAS-IP))

男女機会均等だと思われている中国でも、是正すべき問題があることが報告された。物理に女性研究者が少ない理由を pipe leakage(水漏れ)として5つ挙げている。(i) 男女とも高校で物理を学んでいるにもかかわらず、北京大学物理学科の女性比率は20%であること。(ii) CAS-IPの女性研究員は2007年において14%で、10年前の25%から徐々に減少していること。(iii) CAS-IPの男性教授は増加しているにもかかわらず女性教授は減少していること。(iv) 50歳以上の研究費の配分において女性の割合が減少していること。(v) 教授の退職年齢は男女とも65歳であるが、准教授以下は、男性が60歳、女性が55歳であることである。仕事に関する不公平、退職年齢に関する不平等是正、次世代を担う子供たちがサイエンスに親しむ環境整備の必要性が提言された。

また、中国物理学会では毎年WIPを議論し、物理学会誌にWIPを掲載し、物理学会で女性賞を設立し、物理オリンピックで女子生徒賞を授与し、女性研究者の若手グラント応募年齢制限を35から40歳に引き上げ、諸活動を行っていることが報告された。

(4) 上瀧恵理子氏 (九州大学)

九州大学で非常に成果が上がっている「改革加速事業」について報告があった。

日本の女性研究者の割合が世界最低であることを受けて、第3期科学基本計画(2006-2010)に基づき、文科省が「支援モデル事業」(2006-)として76の機関を採択し、続いて「改革加速事業」(2009-)を行った。

九州大学は、女性限定ポストによる採用システムを理・工・農学部教員数管理ポイント制に組み込み、10年間推進することを決定している。2009年に「改革加速事業」採択され、8.8%であった女性教員数が、2011年には10.5%と着実に増加している。2013年4月までに、15-36倍の競争率の中から34名の女性教員が採用された。2009-2010に採用された20名の女性教員の2012年の科研費は21件42.9百万円、JST採択は2件からもわかるようにとても優秀な人材を確保することができた。この波及効果は大きく、女性研究者に対する認識が変わり、部局での男女共同参画活動が推進され、男子学生に対しても良いロールモデルとなり、諸会議にも女性が参画することができるようになった。このように大学レベルで透明性の高い、厳しい審査を行い、優秀な女性教員を九州大学の構成員にしたことにより、大きな波及効果が生まれ、大学の研究・教育活動が促進されたことが報告された。

(5) 根本香絵氏((国立情報学研究所)

日本応用物理学会では、2001年に男女共同参画推進委員会が発足し、男女共同参画推進学協会発足、学会保育設置、女子中高生夏の学校開催、女性賞設置、学会シンポジウムを推進してきた。大学における女性教員もこの10年で13から18%に増加しているが、第3期科学技術基本法で目標としている30%にはまだほど遠い。小中高、大学学部、大学院、ポスドク、常勤職、教授職と各レベルにおいて議論する必要があると報告した。

(6) Seema Ubale 氏 (Dharampeth M.P.Deo Memorial Science College,インド)

インドの中心 Nagpur で、今年6月25日に、WIPのネットワークミーティング開催されたことが報告された。

(7) 鳥養映子氏(山梨大学)

日本物理学会では、この会議を機会に提案された ATHENA(Acceleration of Theoretical and Experimental Research Networking for Career Advancement of Women in Physics)プログラムの説明を行った。国際版 WIP であり、APPC12 で来日する外国人女性研究者が協力いただく5機関のプログラムに採択いただき、最先端の研究にふれ、研究施設を利用することを目的とする。2013年度は3研究機関に4人の女子学生および研究者が参加している。

(8) 伊賀健一氏(東工大前学長)

東工大の前伊賀学長より、東工大における取組について紹介があった。1983年は、学部、修士、博士課程の女子学生は、3、3、5%であったが、2010年には、12、15、18%と3から5倍になっている。また e-bank という女性研究者マッチングシステムを採用して、5.2から6.5%に上昇したことが述べられた。理工学のトップ大学として、多様な人材を取り入れる重要性、また男女共同参画については、男性の意識改革の必要性についても言及された。

(9) May T. Lim (Philippines)

フィリピンは、the Educational Attainment subindex of the Gender Gap Report of the World Economic Forum (教育に関する GGI score)が、2006年以来1.0を記録している。これが、フィリピンの WIP とどのように相関しているかを、フィリピン物理学会誌の女性執筆者で調べた結果を報告した。

(10) Mon-Shu Ho 氏 (PSROC: the Physical Society of Republic of China)

台湾の大学における物理学の学部、修士、博士、教員の女性比率は 2012 年において 14.2, 15.2, 14.0, 11.5%と少ない。WIP ワーキンググループは 2001 年に発足し、定例会議の開催、優秀な女子大学院生に奨学金を授与、2007 年より、高校生、大学生を対象に物理チャレンジをおこなっている。

(11) Huyen Nguyen 氏 (Ho Chi Minh City Institute of Physics ベトナム)

ベトナムの WIP は、ベトナム理工学学会 (Institute of Physics and Electronics, Institute of Materials Science, Institute of Applied Physics and Scientific Instruments, Space Technology Institute, Institute of Geophysics, and Ho Chi Minh City Institute of Physics, Hanoi University of Science and Technology, Natural Science University, University of Engineering and Technology, and Vietnam National University) で推進されている。3 人の女性教授、10 人の准教授、3 人の研究主任、4 人の研究副主任が重要な役割を担っている。物理学会の 20% は女性会員であるのが現状である。女子学生が物理を楽しんでいる様子が伝えられ、次世代に繋ぐ努力をされていることが伺えた。

(12) Cathy Foley 氏 (Australia)

キャンベラで開催された Women in Science & Engineering (WISE) を中心に報告された。優秀な女性が理工学で活躍することが、経済的にも社会的にも重要であるという位置づけから、担当大臣、150 人のシニア研究者、若い研究者が会議に参加した。男女共同参画の推進、高校生、大学生に理系の魅力を伝えること、制度変革などが議論されたという報告であった。

(最後に)

アジアパシフィックの各国が集まり、互いに「ポジティブアクション」、「ネットワーキング」について、情報・意見交換ができたことが大変に有意義であった。

2001 年以後、日本でも第 2 次科学技術基本計画が推進された頃から、男女共同参画も具体的な施策が始まり、非常に歩みはゆっくりであるが、女性の比率は増加している。しかしながら、目標の 30% にはほど遠いのが実情である。韓国、台湾も同じような過程を経ていると感じた。男女平等と思われる中国でも、是正すべき退職年齢に関する不公平があることが報告された。フィリピンやベトナムなどは、研究環境においてはまだ発展途上であるが、学生及び若い研究者が大変物理を楽しんでいる様子が伺えた。日本においても、「加速改革プログラム」における九州大学の成功には皆が勇気づけられ、各国からも多くの質問が出ていた。次回は、また Waterloo の会議で再会することを皆で確認した。翌日のミーティングでも、AAPPS Bulletin に WIP が寄稿すること、WIP の HP を立ち上げること、女性比率 30% を目標にすることなどが話し合われた。

表1 女性物理研究者による第 3 回アジア太平洋物理学会連合ワークショップ (The 3rd AAPPS Workshop on Women in Physics) のプログラム

Chairperson: Hatsumi Mori

14:10-14:12 Opening remarks by Makoto Konagai

14:12-14:15 Explanation of WIP session by Miyoko O. Watanabe

14:15-14:40 Invited talk by Youngah Park (Korea)

14:40-15:05 Invited talk by Ling-An Wu (China)

15:05-15:30 Invited talk by Eriko Jotaki (Japan)

15:30-15:42 Oral presentation by Kae Nemoto (Japan)

15:42-15:54 Oral presentation by Seema Ubale (India)

15:54-16:10 Oral presentation by Eiko Torikai (Japan)

16:10-16:30 Coffee break

Chairperson: Miyoko O. Watanabe

16:30-16:55 Invited talk by Kenichi Iga (Japan)

16:55-17:20 Invited talk by May T. Lim (Philippines)

17:20-17:32 Oral presentation by Mon-Shu Ho (Taipei)

17:32-17:44 Oral presentation by Huyen Nguyen (Vietnam)

17:44-17:56 Oral presentation by Cathy Foley (Australia)

17:56-18:30 Discussion on Asian WIP network for making our action plan

18:25-18:30 Closing remarks by Shoji Nagamiya

謝辞

ワークショップ開催にあたりご支援下さいました日本物理学会・応用物理学会・東芝・アルマード、ソーラボジャパンに感謝申し上げます。





(写真上)ワークショップの集合写真。(左下) ネットワークディナーでの斯波物理学会会長の挨拶。
(右下) AAPS Working Group on WIP Meeting の集合写真(森撮影)。